

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02318

研究課題名(和文) アジア美術におけるゴーギャン受容

研究課題名(英文) Gauguinism in Asian Art

研究代表者

後小路 雅弘 (USHIROSHOJI, Masahiro)

九州大学・人文科学研究院・特任研究員

研究者番号：50359931

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：福岡アジア美術館の所蔵品、ナショナル・ギャラリー・シンガポールの所蔵品、展覧会、タイ、ミャンマーなど東南アジアの近代美術におけるゴーギャン受容の実例を実見調査したほか、関係者からの聞き取り調査や文献調査を行った。また、日本国内、韓国、台湾、中国を調査して、より広い視野で、ゴーギャン受容の問題を考察する材料を得た。一方、その調査研究をふまえ、2回の研究会(コロキウム)を開催して、アジアにおけるさまざまなゴーギャン受容の実例を通して、その多くは植民地であったアジアの近代における美術の諸問題に対する考察を深めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

東南アジアの近代美術史研究は、近年ようやく活性化しているとはいえ、いまだ新しい研究分野であるといえ、ある特定のテーマで実証的、学術的に行われる研究はまだ少なく、本研究の「ゴーギャン受容」についても、個別な実例が語られることはあっても、汎東南アジア、あるいは広くアジアにおける近代美術の問題として研究されることはほとんどなかった。本研究によって、東南アジアのみならず、アジアにおける近代美術の重要な観点を示すことができたと思う。また、東南アジアに限らず、台湾や韓国といった日本の植民地であった地域や、日本における日本画、そして米軍統治下の沖縄の問題などに視野を広げ、問題意識を深めることができた。

研究成果の概要(英文)：I have conducted researches of modern Southeast Asian paintings which show the trace of Gauguin, such as the collection of Fukuoka Asian Art Museum, the collection and exhibitions of National Gallery Singapore, art museums and artists' studios in Thailand and Myanmar. I have also interviewed artists, curators, and art historians and collected primary documents in Southeast Asia. I have gained important materials to analyze the reception of Gauguin in the larger perspective through researches in Japan, Korea, Taiwan, and China. Based on the findings from these researches, I have organized two colloquiums to discuss the various issues related to the modernization of art in Asian countries through the case studies of individual artists who have studied paintings by Gauguin.

研究分野：美術史

キーワード：ゴーギャン受容 アジア美術 モダニズム 植民地

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東南アジアの近代美術に関する学術的な美術史研究は、近年進展を見せつつあるものの、いまだ新しい領域といえる。東南アジア各国のおおまかな近代美術の流れについては、知られているものの、個別の研究テーマが深められることは、それほど多くない。本科研の研究代表者である後小路は、東南アジアを中心に、美術史研究を行ってきたが、以前から東南アジアの近代美術家のゴーギャン受容について注目し、そのことが東南アジア近代美術の展開において重要な観点を示すものと考え、調査研究を行って、その成果を「失われた無垢なわたし」という他者「東南アジア美術におけるゴーギャンニズム」という論考にまとめた(『美術フォーラム 21』21号、2010年)。その後、その研究テーマを広くアジアに広げて発表する機会を与えられ(「民族藝術学会創立30周年記念大会公開シンポジウム 接触領域の藝術～美術・音楽・芸能～」2014年)、その発表を通して、「ゴーギャン受容」の問題は、広くアジアにおける近代美術の諸問題を考える重要な論点になると考えるに至った。

2. 研究の目的

1930年代からアジア太平洋戦争をはさんで1950年代、アジアにおける近代美術の揺籃期に、美術家たちにとって、道しるべとなり、規範となったのがフランスのポスト印象派を代表する画家ポール・ゴーギャンであったように思われる。日本では影響力の大きかったヴァン・ゴッホやセザンヌではなく、あるいは印象派の画家たちのような西欧近代美術の巨匠たちではなく、なぜとりわけゴーギャンであったのか、そしてゴーギャン受容が、アジアの近代美術になにをもたらしたのか、そしてそれは、アジアの近代美術のどのような課題を反映しどのような構造を照らし出すのか。この東南アジアにおけるゴーギャン受容という問題は、たんに西洋美術の影響や参照ということにとどまらず、植民地統治のもとで展開されざるをえなかったこの地域における近代美術がもつさまざまな問題を考えるうえで重要な課題を提起するように思われる。そのような問題意識の下、東南アジアを中心に、日本、台湾、韓国などの事例を加えて比較検討し、アジアにおける「ゴーギャン受容」の実態を明らかにし、広くアジアにおける近代美術の基本的な構造とその重要な問題を考察し、明らかにするのが本研究の目的である。

3. 研究の方法

これまで収集してきた東南アジアにおけるゴーギャン受容の諸相について整理し、それをさらに深めるために現地調査を行う。また、東南アジア近代美術の研究者と議論して考察を深める。また、考察対象を日本や台湾、韓国など東アジアに広げ、作例の収集や文献調査を行って、実態を明らかにする。さらに、研究者を招いてシンポジウムを行い、考察を深めるとともに、問題意識、研究成果の共有をはかる。そのシンポジウムの報告書を作成して、広くこの問題の周知と成果の共有をはかる。

4. 研究成果

現在もっとも充実した東南アジア近代美術のコレクションを有するナショナル・ギャラリー・シンガポールの収蔵品、所蔵品を調査し、同美術館の学芸員と意見交換をおこなったほか、ベトナム、ミャンマー、台湾、韓国などで、現地調査を行い、各地におけるゴーギャン受容の様相を実見するとともに関係者にインタビューを行った。加えて国内の事例として和歌山県立美術館や沖縄県立美術館の所蔵品や展覧会を調査した。

その成果を踏まえ、本研究テーマにおける2度の研究会を行った。1回目は、和歌山県立近代美術館の藤本真名学芸員と沖縄県立美術館の大城さゆり学芸員を招いて、それぞれ日本画におけるゴーギャン受容の実例と米軍統治下における沖縄の作例について考察し、日本の近代美術においても、さまざまなゴーギャン受容があることについて理解を深めることができた。2回目は、シンガポール・ナショナル・ギャラリーの堀川理沙シニア・キュレーターをはじめ、九州大非常勤講師の羽田ジェシカ、三重県立美術館高曾由子学芸員、九州大学大学院山中理彩子と、長年申請者としての研究テーマを共有してきた研究者の参加を得て研究を深めることが出来た。堀川は戦前期英領マラヤにおけるゴーギャン受容の中核をなす(しかし現存作品の極めて少ない)張汝器の新発見の作品などを紹介し、近年の研究調査の成果を報告した。羽田は、日本植民地期台湾の日本人画家塩月桃南におけるゴーギャン受容について、山中は、日本の中でも、とりわけ京都におけるゴーギャン受容の理念的な側面を跡付けるとともに日本画におけるゴーギャン受容について論じた。高曾は官展の陶芸ジャンルの中の陶板壁画におけるゴーギャン受容という珍しい観点から、作例を紹介し、日本におけるゴーギャン受容の奥行きを深さを示した。これら2回の研究会をあわせて紙媒体で報告書を作成した。

なお、3年目には、補足的な調査として、東南アジアにおけるゴーギャン受容と比較するため、日本統治期の台湾近代美術の調査を行った。とくに日本統治期を中心に台湾のシュルレアリスムの動向を探った『共時的星叢:「風車詩社」與跨界域藝術時代(響きあう星たち 風車詩社とその時代)』展の調査は、ゴーギャン受容に関わる資料を見る貴重な機会となった。さらに、これまで未調査であったミャンマー近代美術調査をヤンゴンとマンダレーで行うことができた。国立博物館の所蔵品や個人コレクションによって、また収集した文献によって、ミャンマー近代美術の概要を知ることができたが、直接的なゴーギャン受容は見られなかった。東南アジア諸国にあって、各国の政治、社会状況や文化の文脈によってゴーギャンを積極的に受容した国とそ

れがほとんど見られない国があることがわかった。

3年間の調査研究を通して、東南アジアと台湾、日本（沖縄）など東アジアを比較しながら、ゴーギャン受容というひとつの現象を入り口に、アジアにおける西洋近代美術受容と、アジア各国の近代美術が持つ固有の課題について考察することができた。そのことを美術作品の実際に即して見ていくことで、欧米諸国からの圧倒的な影響を受け入れながら近代化を進めたアジア諸国が、美術の分野で、それぞれの社会の固有の問題として捉えなおしていったのかを明らかにすることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 7
2. 論文標題 ミャンマー美術瞥見	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しるば	6. 最初と最後の頁 39 - 41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 7
2. 論文標題 美麗島縦走記	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しるば	6. 最初と最後の頁 41 - 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 5
2. 論文標題 「カンボジアのSUZUKIを探して」異聞	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 しるば	6. 最初と最後の頁 13 14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 1
2. 論文標題 アジアのモダン・アート	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 arts（民族藝術）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 941
2. 論文標題 麗しの東インド ジャワの風景画家森錦泉	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学会報	6. 最初と最後の頁 41-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 4
2. 論文標題 二ーのいた夏 1943 戦争	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 しるば	6. 最初と最後の頁 2 - 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 後小路雅弘	4. 巻 35
2. 論文標題 東西ふたつの世界のはざままで苦闘した東南アジアのパイオニア画家	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 民族藝術	6. 最初と最後の頁 192 - 193
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 「カンボジアのスズキ」のその後 BARBARA DARINGによる調査から
3. 学会等名 第47回アジア近代美術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 美麗島縦走 台湾調査報告
3. 学会等名 第48回アジア近代美術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 ジャワの日本人画家森錦泉 “麗しの東インド” を越えて
3. 学会等名 シンポジウム「近現代東亜美術史の新資料與新研究」(台湾・北投文物館)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 ミャンマー美術と“ゴータン受容”
3. 学会等名 第49回アジア近代美術研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 南洋のゴータニズム あらかじめ失われた「本当のわたし」を探して
3. 学会等名 第46回アジア近代美術研究会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 島の女 という誘惑 アジアにおけるゴーギャンニズム
3. 学会等名 第44回アジア近代美術研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 Gauguinism in Southeast Asian Art
3. 学会等名 シンガポール国立美術館研究会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後小路雅弘
2. 発表標題 アジア美術のゴーギャンニズム
3. 学会等名 国際コロキウム：移動する画家と東アジア近代美術の形成
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

第44回アジア近代美術研究会 http://blog.livedoor.jp/asian_art_studies/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----